

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に、職員皆で考えた「かえでの理念」「かえでの目標」があります。いつでも確認できるよう、どちらも「職員連絡事項」にファイリングしています。	法人理念、事業所の独自理念、施設目標などについては玄関正面、各ユニットの目に付き易い所に掲示し来訪者にも分かるようにしている。合わせて、職員の連絡帳にも綴じこまれており、出勤時に確認し日々の業務に入るように徹底している。職員は理念、目標の持つ意味を良く理解し、利用者の想いを受け止め優しく寄り添っている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地元ボランティアさんや地元小学生との交流会がありましたが、コロナ禍で休止状態です。 この夏は近所の方からたびたび野菜をいただきました。野菜はもちろんですが、お気持ちがとてもありがたかったです。	開設以来自治会費を納め、回覧板も回していただき、参加出来る行事には参加し地域の一員として活動しているが、新型コロナ禍が長引き殆どの行事が中止の状況となり残念な状況が続いている。そうした中、近所の方とは散歩の時には挨拶を交わし、夏場には野菜の差し入れなどを頂き感謝している。また、長野市のシニア大学からは古タオルを沢山寄付していただき日々利用している。地域の小学生との交流会や各種ボランティアの受け入れも新型コロナ禍のため中止されているが、コロナ収束後は再開を望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な場を設けての情報発信は行っていませんが、認知症の対応方法や介護サービスについてのご相談をお受けしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍に伴い、運営推進会議は書面による報告・質疑応答の形式で開催しているため、遠方に住むご家族にも参加していただけるようになりました。外部からは、職員と違う視点からの御意見をいただくことも多く、大変参考になっています。最近では、事故報告に寄せられたご意見をもとに、照明設備を変更しました。	新型コロナ禍が続き、書面での開催としている。利用状況、事故報告、新型コロナ関係、行事報告、職員関係等を書面にし返信用封筒にご意見用紙を同封の上、利用者家族、区長、地域包括支援センター職員、市高齢者活躍支援課職員、あんしん相談員、地区住民自治協議会職員などの運営推進会議参加メンバーにお届けしている。新型コロナ関連や事故報告、行事に関する事等、積極的な意見・助言を頂きサービスの向上に繋げている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて連携を取っています。事故の際の報告はもちろん、判断に迷う事柄は小さなことでも報告しておくよう心掛けています。	市高齢者活躍支援課には事故報告を速やかに行っている。地域包括支援センターとは入居状況等について連携を取り、入居者の紹介をいただいたりもしている。介護認定更新調査は家族に連絡の上、調査員がホームに来訪し職員が対応して行われている。あんしん(介護)相談員の来訪は現在中断されているが、コロナ後の再開を待望している。	

グループホームかえで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や、定期的開催している「身体拘束適正化委員会」を通じて理解を深めています。拘束につながりそうなケアについても定期的話し合いを行っています。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。ホームの前を幹線道路が走っていることから安全確保のため玄関は施錠されている。帰宅願望の強い方はいないが、外出傾向の強い方いるのでホームの周りを散歩したり近所をドライブして納得していただいている。また、転倒、転落の危惧のある方がおり、法人独自の見守り支援システムを使用している。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開き、安全確保のための拘束が発生した場合などの対応の仕方について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアは虐待の前段階と捉え、お互いに注意しあうように呼び掛けている。研修では、身体的虐待だけでなく様々な種類があることを学んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修にて成年後見制度について学ぶ機会を設けています。成年後見制度を利用されているご利用者様も数名いるため、身近な制度として理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、入居時にご家族を含めてわかりやすく説明を行っています。外泊・受診付添い・お看取りに関しては、重ねてお伝えする形になりますが、その都度説明するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加いただいているご家族には会議でご意見を伺い、その他のご家族には、面会や電話連絡の際に伺っています。また、利用者様自身が行事や食事のリクエストをされることも多いため、企画の段階で意見を伺うようにしています。	家族の面会は新型コロナ感染拡大レベルに応じレベルが2以下の時には玄関での面会を行っている。現在はレベル3以上のため、事前に連絡を頂き、玄関先でガラス越しの面会を行い、携帯電話を併用して行っている。そうした中、利用者のホームでの生活の様子は2ヶ月に1回、お便り「かえで通信」として個人別に作成し、写真入りでお知らせし喜ばれている。また、誕生日や、母の日、父の日にはセーター、肌着等、身に付けるものやお菓子、お孫さんの写真等が届けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期に一度職員と個別面談を行い、運営企画部や総務部に報告しています。面談以外でも、ふだんから職員が意見や提案を気軽に口にできるような雰囲気づくりに努めています。	必要に応じミーティングを行い、運営上の話し合い、各種勉強会、カンファレンス等を行い業務内容の周知に繋げている。人事考課制度があり、職員は年間目標を立て自己評価を行い、管理者による個人面談も行われ、モラルアップに繋げている。更に、加えてもう1回個人面談を行い、職員一人ひとりの意見や悩みを聞く機会として意識改革にも繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力に応じて、毎月の評価を行っています。また、介護や育児などそれぞれの事情に応じて柔軟に対応しています。		

グループホームかえで

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務状態から、職員それぞれの力量を把握するよう努めています。また、法人研修として外部から講師を招き、それぞれのスキルアップに役立てています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加した際には、積極的な交流を呼びかけていますが、今年はほぼオンラインのため、実際の交流には至っていません。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごとを打ち明けやすいように、1対1で話す時間を作るようにしています。言葉で表現することが難しい方は、ご家族からの聞き取りを念入りに行い、表情や仕草などの観察をしっかりと行います。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族にとっての困りごとを聞き取り、施設として「できる事」「できない事」の説明を行っています。入居後、ご家族が利用者様にご関わりたいか・関わるができるかについても確認を行います。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みをされる方の中には、在宅サービスの存在を知らず、介護に疲弊して入居を検討される方もいらっしゃいます。ご本人やご家族の希望、金銭面も含めて細かく聞き取りを行い、別のサービスを提案することも多々あります。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの「できること」に目を向け、利用者様がお世話されるだけの存在にならないよう心掛けています。利用者様が別の誰かの話し相手になることも、立派な役割であると捉えています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族が本人のためにできること」はもちろん「本人が家族に対してできること」も大切にしています。関わり方についてご家族に相談すると、職員では思いつかないようなヒントをもらえることもあります。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍につき、長時間一緒に過ごしたりお茶飲みをしたりといったことは難しい状況ですが、馴染みの方々と関わりを続けていけるよう、手紙や電話のやり取り、ガラス越し面会のお手伝いをしています。	新型コロナ禍のため、友人、知人の面会は自粛している。そうした中、家族と電話で連絡を取り合っている方もいる。また、生活雑貨やテレビの買い替え等、希望の物は家族に連絡し届けてもらったり了解を得て職員が買い求めている。年末には希望により家族に年賀状を出された方も数名いるという。

グループホームかえで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースが狭く、利用者様同士の距離が近いです。お世話好きな方に誰かの話し相手をしてもらったり、利用者様だけでゲームしてもらったり、ということもしばしばあります。職員が手や口を出しすぎないようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ数年、サービスの終了(退居)は、お看取りか特養入所がほとんどです。利用者様が退居してだいぶ経っているのに近況報告をくださるご家族もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で思いを伝えられる方には直接ご本人に聞き取りを行います。それができない方は表情やふだんの行動、生活歴やご家族の話をもとに判断しています。	「はい」「いいえ」で答えられるような声掛けを心掛けている。食べ物、飲み物等は幾つか提案して選んでいただくようにしている。意思表示が難しい方がいるが、家族から聞いた情報も参考に、表情を見たり、何人かの職員が観察して「こうしたらどうか」と意見を出し合い意向に沿えるように支援している。また、入浴時や居室にて1対1で話をする機会を設け、変わったことや気付いた事柄については申し送り一覧表に記録として残し、出勤時に確認し希望に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が伝えられない場合はご家族から聞き取りを行います。別居の場合はご家族が把握していないことも多々あります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事・出来ない事は、本人やご家族の思い込みというケースも多々あります。様々な場面で観察したことを、職員間で情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に意見を伺うと、多くの方が「施設にお任せします」と言われることが多いので、ご本人への聞き取りや関係者の意見を参考にケアプランの原型を作成し、その後ご家族様から意見をいただくという形を取っています。	職員は利用者一人ひとりの状況を把握することに努めている。モニタリングは3ヶ月に1回、カンファレンスの席上で行い、家族の意向も加味しながら管理者がプランの作成を行っている。入居時は1ヶ月間の暫定プランを作成し様子を見て、本プラン作成に繋げている。短期目標6ヶ月とし、状態が安定している場合は12ヶ月での見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時見直し、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員がたまたま目にした表情・耳にした言葉に介護のヒントが隠れていることもあります。そういった気づきは記録や話し合いで共有し、より良いケアができるよう努めています。		

グループホームかえで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前に比べ、ご家族がいない利用者様が 多くなってきました。全てをルール化せず、 ケースバイケースで対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地元のボランティアさんや、子供たちとの交流が大きな楽しみとなっていました が、コロナ禍で休止状態となっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者様が訪問診療を利用しているため、職員が立ち会って普段の様子をお伝えしています。コロナ発生時は、陽性判明後すぐに内服薬の処方があり、回復も早かったです。	利用契約時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、入居前からのかかりつけ医利用の方が若干名おり家族が2ヶ月に1回、受診に同行している。他の大半の方はホーム協力医の月2回の往診で対応している。合わせて、週1回、契約の訪問看護ステーション看護師の来訪があり、健康管理をするとともに医師との連携を図り、24時間の対応が可能となっている。歯科については毎週木曜日に協力歯科の往診があり口腔ケアの指導もいただき、口の健康に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員としての看護師はいない為、訪問看護ステーションと契約しています。週2回の訪問があるほか、24時間相談可能で、急変時には緊急訪問の対応があります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が安心して治療を受けられるよう、入院時は詳細な情報提供を行っています。退院前は、あらかじめ病院関係者に生活の注意点を確認し、安心して療養ができる環境を整えます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向を伺いますが、どこでどのような最期を迎えたいかについては、その都度確認を行います。かえででの看取りを希望された場合は、家族や医療職と連携をとりながら、それぞれの事情に合わせて納得できる最期を迎えられるよう支援します。自宅での看取りを希望される場合は、在宅サービスに繋ぐお手伝いをします。	重度化、終末期に対するホームとしての指針があり利用契約時に説明し、家族の意向も伺い同意書を頂いている。食事や入浴が難しい状況になり終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上医師の指示の下、医療行為を必要としない限りにおて看取り支援に取り組んでいる。開設以来14名の方を看取り、この1年以内に1名の方の看取りを行い、新型コロナ禍ではあるが、家族には居室で最期の時を共にしていただきキーボードに合わせお好きな歌を歌ったり甘い物を口に運び、心の籠った支援に取り組み家族からも感謝の言葉を頂いている。年1回の看取り研修会を行い、また、看取り後の振り返りの機会を設け、新型コロナ禍の中でのベストな看取りについて話し合っている。	

グループホームかえで

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故を想定した訓練だけでなく、過去に起きた事故の検証も行っています。AEDに関しては、DVDを活用して使用方法の確認を行っています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災ボードをタイムカード脇に設置しており、各自役割を確認してから勤務につくようにしています。避難訓練は、日中想定・夜間想定それぞれ1回ずつ行っています。2年越しで準備を進めてきた地域応援協定については、地区の協力のもと令和3年4月に締結できました。	消防署へ届け出の上、年2回防災訓練を行っている。新型コロナ禍のため今年度もホーム内部のみでの訓練を行っている。7月には火災を想定し、利用者全員外へ移動しての夜間想定避難訓練を行っている。合わせて消火器の使い方通報装置の装置確認シュミレーションを行っている。1月には日中想定避難訓練に合わせ土砂災害を想定し避難経路の確認を行っている。また、一昨年、地域との防災協定も結ばれ協力関係の下、防災への備えとしている。備蓄として「米」「水」「冷凍食品」等が3日分準備されている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一緒に過ごす時間が長いと、利用者様に対して馴れ馴れしい声掛けになりがちなので、日頃から職員同士が指摘しあえる環境を心掛けています。馴染みの関係であっても、節度を持った声掛けを行うほか、入浴や排泄に関することは、利用者様の立場になって行うよう呼び掛けあっています。	親しい中にも礼儀ありで、馴れ馴れしくならないよう気を付けている。職員の年齢構成も広いので年齢にふさわしいような言葉遣いをするようにしている。自分だったらどうかの思いを持ち、子どもに接する様な言葉遣いはしないよう徹底している。また、利用者の前では他の利用者の話はしないよう心掛け、プライバシーにも配慮している。入室の際には「入ります」と声掛けを行い、呼び掛けは基本的には苗字を「さん」付けでお呼びし希望で名前でも呼ぶケースもある。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張することが苦手な方、自分の言葉で表現できない方についても配慮するようにしています。何を身に着けるか・どの席に座るかといった一見小さなことも「自己決定の機会」ととらえるようにしています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間など、大まかな予定は決まっていますが、ご利用者様の気分や体調によって調整しています。お手伝いやレクリエーションが「義務」にならないよう気を配っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見当識障害や強いこだわりがある方には、その時々状況に適したものが着られるように支援しています。緊急事態措置・まん延防止等重点措置期間中は、訪問理美容を依頼せず、ご家族や利用者様の同意を得て職員がヘアカットしていました。	

グループホームかえで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍に伴い、時間をずらして少人数ずつ食事を提供する形になりました。職員も利用者様と同じメニューをいただいています。調理作業は職員が行っていますが、後片付けはどなたかに参加してもらっています。	自力で摂取できる方が半数強、一部介助の方と全介助の方が数名ずつという状況である。管理者が2～3日分の献立をイメージしてネットスーパーに食材を注文し、届いた食材を確認の上アレンジして調理し提供している。利用者のお手伝いは後片付けをメインに参加していただいている。そうした中、月1回の行事の際には利用者の希望を聞き、お彼岸には「おはぎ」「天ぷら」、土用の丑の日には「鰻」で季節の味を楽しみ、「お寿司」「牛丼」「ハンバーガー」等もテイクアウトし食べることを楽しさを味わっている。新型コロナウイルス禍で外食が難しい状況が続いているが、コロナ後には以前のように「ラーメン」等を楽しみに出掛けたいという希望を持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	制限のある方は水分量を超えないように提供、摂取量が少ない方は嗜好に合わせた飲み物を提供しています。咀嚼や嚥下の機能にあわせて、水分にトロミ付け、刻み加工、ミキサー食の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けまたは介助を行っています。義歯は、就寝前にお預かりして洗浄剤を使用しています。うがいが困難な方には、拭き取りシートやスワブを使い清潔を保つようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりの方以外は、トイレでの排泄を基本としています。トイレに異物を流してしまう方は、前後にさりげなく声掛けを行うことでトラブルを減らしています。	一部介助の方が三分の二、全介助の方が三分の一弱という状況である。基本的にはトイレでの排泄を心掛け支援に取り組んでいる。排泄表も参考に、起床時、食事前、おやつ時、就寝前など、定時に声掛けを行いトイレにお連れしている。排便については職員が一人ひとりの状況を把握しているので様子を見て声掛けを行い、状況に合わせ排便コントロールを行っている。また、排便促進を図るべく「お茶」「汁物」「ゼリー」「スポーツドリンク」等、1日1,500cc以上の水分摂取に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排泄ができるよう、排泄記録をとり水分量や食事内容に気を配っていますが、それでも便秘になる方には、主治医と相談しながら排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかな入浴時間は決まっていますが、順番や入浴剤などの希望には可能な限り応えています。話好きな方には話しかけながら介助を行い、ゆっくり入りたい方は静かに見守るようにしています。	広く明るい浴室には一般浴槽と特殊浴槽が設置されており、利用者の状況に合わせ配慮している。全利用者が何らかの介助を必要としており、週2回、入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが時間や職員を変え対応している。現在要介護5の方が数名おり特殊浴槽を利用している。また、利用者の希望を聞き、「花の香り」「果物の香り」等の入浴剤を使い、「ゆず湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	

グループホームかえで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜しっかり休めるように、午睡が長時間にならないよう気を配っています。不眠傾向がある方は、日中の活動量を増やすよう声掛けを行います。1日3回訪室し、居室環境が快適かつ安全な状態であるか確認しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬は間違いを防ぐ為2名で確認を行い、服薬前には「名前・日付・時間」を読み上げます。空の薬袋は、飲み残しがないかを確認してから廃棄します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯(干す、取り込む、たたむ)、掃除、食器洗いなどの家事が好きな方、読書や塗り絵など一人作業が好きな方、それぞれの好みや得意な事を見出すようにしています。ランプゲームはもう何年も続いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではありますが、市中の感染状況が落ち着いている期間は、少人数ずつお花見や紅葉狩りに出かけました。本人やご家族から希望がある方は、ドライブがてら道の駅やコンビニエンスストアなどにお連れすることもあります。これまでのように外出や外食ができなくなったので、行事を屋外で行ったり、テイクアウトの食事を取り入れたりしています。	外出時、自力歩行と歩行器使用の方がそれぞれ数名ずつおり、車いす使用の方が半数強となっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり日当たりの良い広いテラスに出て外気浴を楽しみながらお茶を飲んでいる。新型コロナウイルスが長引き外出しクリエーションが難しい状況が続いているが、感染対策を取った上で少人数に分かれ春の桜から秋の紅葉見物まで、ドライブを兼ね外出しコンビニに立ち寄り「アイスクリーム」や「パン」等のおやつを買い、花を見ながら季節感を楽しんでいる。新型コロナウイルス収束後には以前の様に家族参加の下、現地集会で楽しい時間を過ごすことを待ち望んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方が多いため、基本的にお金を所持されている方はいません。手元にお金がないと落ち着かないという方は、ご家族と相談の上で、居室に少額の現金を置く場合もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人へ手紙を出したい・電話をかけたいという希望があった場合は、随時対応しています。利用者様本人が携帯電話を所持されている場合は、充電や管理のお手伝いを致します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いホールには新聞や雑誌、製作途中の塗り絵や工作などがあり、整った状態とはいえないですが、利用者様が好きな時に自由に手に取ってもらえます。テラスは比較的空間があるので、晴れた日は日光浴や歩行訓練を行っています。	陽当たりの良い大きな掃き出し窓から外に出ると広いベランダが設置されており、外気浴やバーベキュー大会等、ホーム全体の寛ぎの場となっている。ユニット間を仕切るパネルは常に開かれ全員が一つの家族として生活する場となっている。広い廊下の壁には日々の生活の様子や行事の様子を映した写真が多く飾られ活動の様子を窺うことができる。	



グループホームかえで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に置かれたソファや椅子には、いつの間にか誰かが座っています。通りがかった方が隣に座り、利用者様同士で盛り上がっていることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置いている方、家族の写真やはがきなどを飾る方、転倒の原因になりそうなものは一切置かない方など人それぞれです。行事で撮った写真や、自分で書いた塗り絵を飾る方が多いです。	整理整頓が行き届いた居室には大きなクローゼットが完備されている。居室入り口には行事の際に写した写真が飾られ、自分の居室としてわかるように工夫がされている。家族と相談の上、テレビ、イス、衣装ケース等が持ち込まれ、家族の写真、ぬり絵等の自分の作品などに囲まれ、自由な生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内服薬や洗剤等は、利用者様の目につかない場所で管理しています。 歩行ができない方、立位が不安定な方、ポータブルトイレを使う方などには、センサーを活用して事故防止に努めています。		